

## (58) 白銀(しろがね)鉱山跡一追記

10年ぶりに現地を再訪した。ガーミンによる確かな経路ログをとることと、現在の状況を確認するためでもある。消えてしまいそうであった沢に沿った林道は、森林の間伐のためにトラックが通行できるように、現地よりズッと上流まで大幅に拡幅されていた。

2020年2月

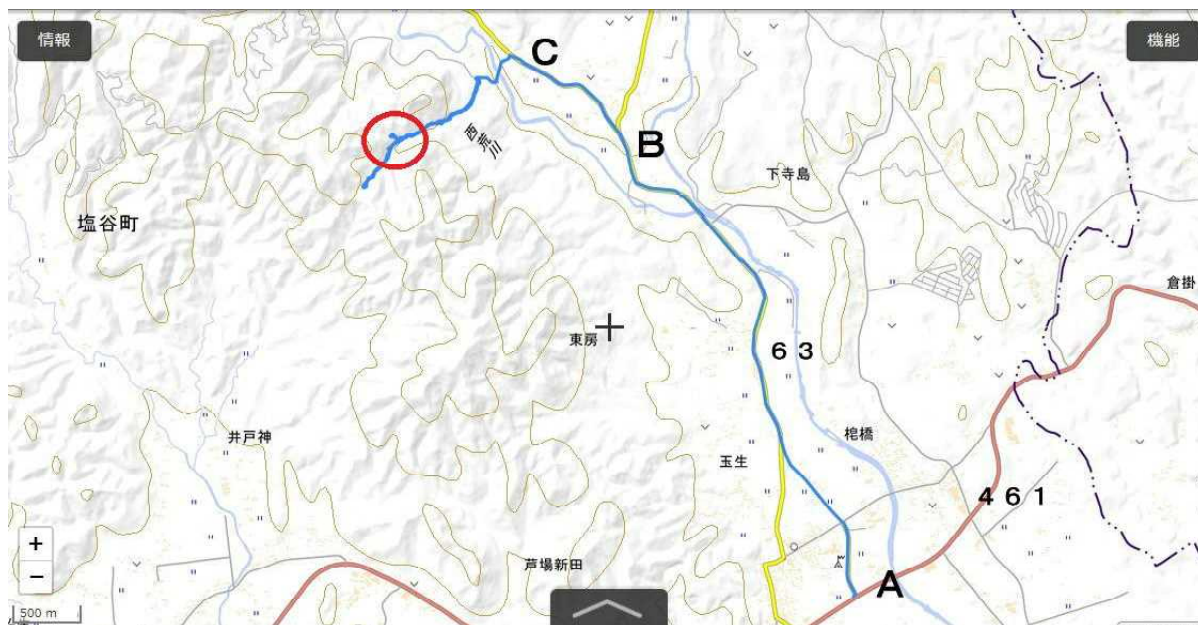


図1 青色曲線がGPSのガーミンによる経路曲線。東西に延びている461号線を玉生のA点で、63号線に入り北上して行く。村落中のY字路のB点で左方向に進む。1kmほど進んで、橋の手前のC点で左折して進んで行く。赤丸が現地である。

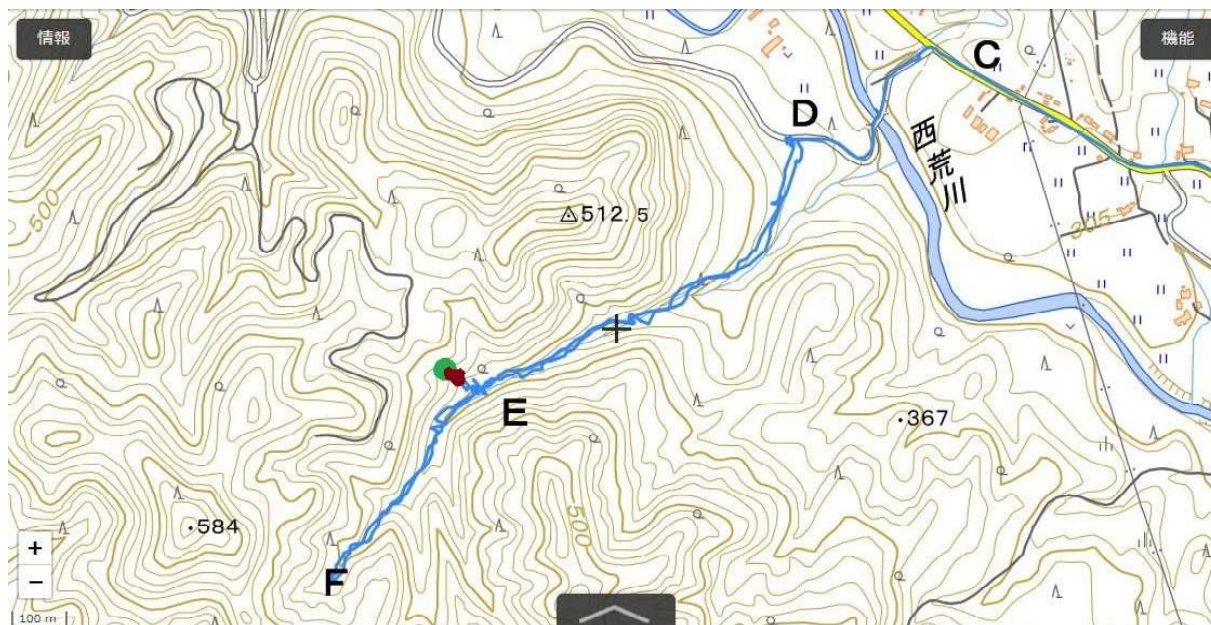


図2 図1の部分拡大図。車はD点付近に適当に駐車できよう。D点からE点の上流まで広く平坦な林道である。徒歩で15分程か。今回は探査も兼ねていたので、F点当たりまで登り上がった。現地はE点の所である。登って来て、E点の所の右側の小さい沢の上流にある。黄緑丸が坑口跡、茶色ベタがズリ跡。



## 鉾山跡写真



写真1 図2のC点。前方に橋がある。その手前で左折する。



写真2 図2のD点である。この林道を先へと進んでいく。入口にはチェーンが張られていた。車はこの付近の適当な広さのところに駐車できよう。道はF点より先までトラックが通行できるようである。が、ここより歩いて行こう。



写真3 図2のE点付近である。前方10m先、右側に小さい沢がある。写真4参照。

写真4 小さい沢である。この沢の少し上流に坑口及びズリがある。間伐による材木、捨て枝が一带を覆っている。が、登り上がるのには苦はない。





写真5 坑口跡である。10年前の同じ写真と比較するのも良いであろう。

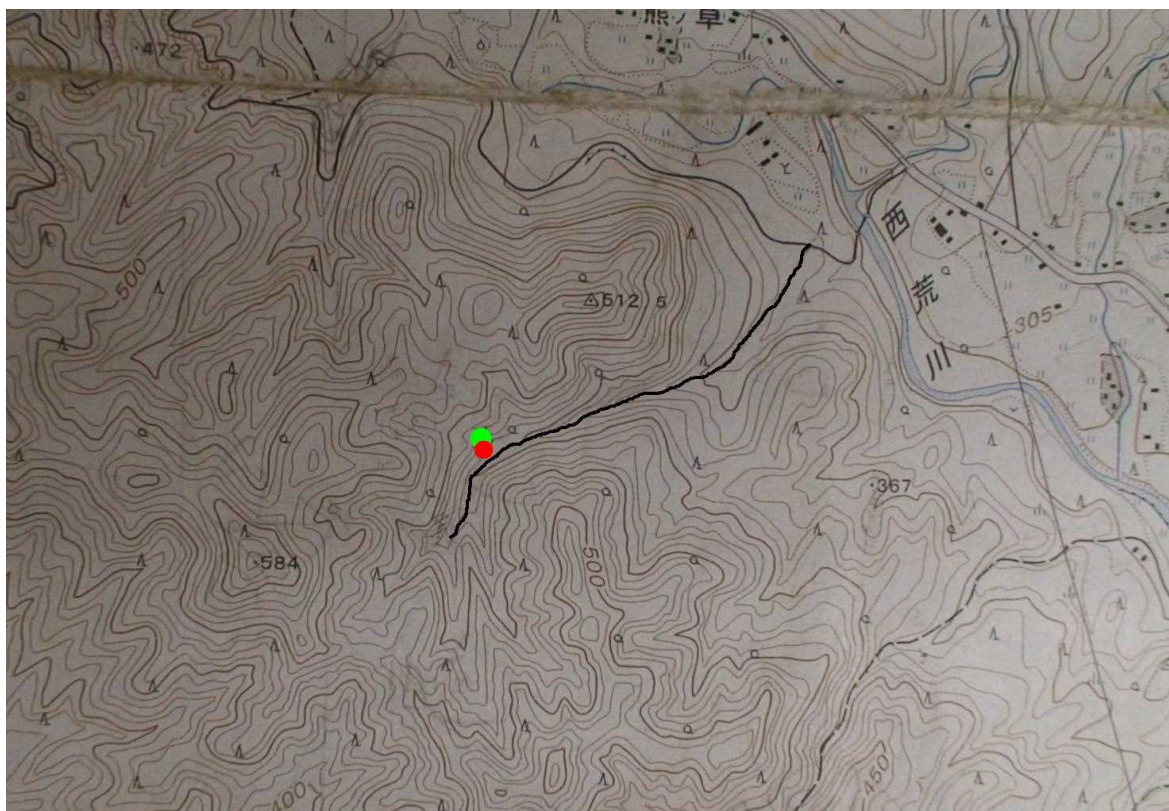


写真6 入口から内部をフラッシュ撮影した。非常に綺麗な坑道が現在でも健在である。

## (58) 白銀(しろがね)鉱山跡

栃木県塩谷地区にある。参考文献(1)によれば、「・・・石英斑岩または流紋岩中の鉱脈で**含金石英脈**である。・・・」

玉生から上寺島を目指して道を北上する。下寺島にはいると道路は三叉路となる。ここから上寺島方向に、700m～800m当り進むと、道路に橋が架かっている。この橋の直前で、左の林道に入っていく。少し進むと、また橋があり西荒川を渡る。林道を道なりに進み、渡った橋から200m～300mのところで、左に林の中をなだらかで真っ直ぐに延びている林道がある。現有している国土地理院の地形図にはこの林道は記載されていなかった。下の地形図に、この林道を黒線で書き入れている。この所に車を停車して、林道を歩き始める。それほど悪い林道ではない。林道を進むこと約800m程で、右側に小さな沢がある。地形図の赤丸の箇所である。この小さな沢を数十m登り上がると、ズリらしい箇所が沢の右側にあり、その先の右手に立派な坑口跡がある。



赤丸が鉱山跡。緑色が坑口跡

地図 国土地理院 2万5千分の1 地形図「玉生」

探査日 2010年4月、その他の日

参考文献

(1)「日本地方鉱床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。



## 鉾山跡写真



林道を登ってくる約800m。右側に小さな沢がある。



この沢の上に坑口跡、ズリがある。



ズリらしい箇所。ズリの上に成長している太い杉の木が、時間の流れを感じさせる。



ズリの先にあった坑口跡。

## 採集鉱物写真

ズリ跡から黒い筋のある石英を幾つか簡単に採取できた。持ち帰って新しい破断面を出し、実体顕微鏡で覗くと山吹色の小さい薄膜を、結構な頻度で見ることが出来た。試しに大きな薄膜1つに塩酸を垂らしてみた。全く変化しない。ので金薄膜と判断した。が、肉眼では、芥子粒である。確実に金鉱石を採集できることは確認できた。次回以降を期待したい。